



平成 21 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 オエノンホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 長井 幸夫  
 (コード番号 2533 東証・大証・名証第一部、札幌)  
 問合せ先 コーポレートコミュニケーション室長  
 山口 徹(TEL 03-3575-2777)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 2 月 6 日の決算発表時に公表した平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

1. 平成 21 年 12 月期 第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正  
 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 21 年 2 月 6 日発表)	42,000	700	680	240	3円67銭
今回修正予想(B)	38,900	60	80	△170	△2円61銭
増減額(B-A)	△3,100	△640	△600	△410	
増減率	△7.4	△91.4	△88.2	-	
(ご参考)前第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	39,285	631	665	221	3円39銭

2. 平成 21 年 12 月期 第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正  
 (平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 21 年 2 月 6 日発表)	1,680	350	320	320	4円89銭
今回修正予想(B)	1,680	420	440	390	6円08銭
増減額(B-A)	0	70	120	70	
増減率	0.0	20.0	37.5	21.9	
(ご参考)前第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	1,967	1,176	1,164	932	14円26銭

### 3. 修正の理由

#### (1) 連結業績予想

第2四半期の業績につきましては、依然として景気の急速な悪化から雇用・所得環境が厳しさを増す中、個人消費が大きく減退しており、酒類業界も厳しい状況が続いております。

そのような状況下、当社グループは消費者の生活防衛意識の高まりを素早くキャッチし、前期から注力している混和焼酎や大手組織小売業とのP B商品、更に苫小牧工場稼働によるアルコール事業等の売上高が大きく躍進しました。

一方、昨年9月に発生した「事故米」事件の影響を受けた芋焼酎や麦焼酎をはじめとする本格焼酎、ワイン等洋酒の減少もあり、売上高は前回予想を下回る見込みであります。

収益面では、売上高減少の他、本年4月から稼働した酒類・工業用アルコール製造ならびにバイオエタノール技術実証に伴う苫小牧工場の減価償却費等諸費用が増大したことや、昨年下半年から続いている粗留アルコール、原料米、糖類などの高騰による売上原価の上昇が主な要因となり、営業利益、経常利益、四半期純利益とも前回予想を下回る見込みであります。

しかしながら、下期は生産面では粗留アルコール、大麦等原材料価格の低下や、重油等のエネルギーコストの低減が想定されるとともに円高効果も相まって、売上原価の大幅な削減を見込んでおります。

販売面においても顧客ニーズに合致した新商品の発売、更なるP B商品の拡大等の効果による売上高増加を計画しており、現在のところ、平成21年12月期通期の連結業績予想につきましては、変更はありません。

#### (2) 個別業績予想

第2四半期の業績につきましては、売上高においては、ほぼ前回予想通りの計上となる見込みであります。

また、営業利益、経常利益、四半期純利益においては当初見込んでいた管理諸費用の発生が下期以降にずれ込むこととなり、前回予想を上回る見込みであります。

なお、平成21年12月期通期の個別業績予想につきましては、変更はありません。

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上